

# Hamamas



Sep / 2009

Now mi stap long Kokopo. Long Kokopo,  
I gat planti nature na gutpela si na  
naispela kalsa. Olsem na mi laikim tokim  
yupela long Papua New Guinea. Olsem na mi  
mekim sampela toksave long Hamamas. Sapos  
yupela i gat laik long Papua New Guinea, bai  
mi Hamamas. Tenkyu tru.

初めまして。私は青年海外協力隊でパプアニューギニアのココポで理学療法士として派遣されている山本裕隆と申します。今回、皆様にパプアニューギニアの事について「Hamamas」を通してお伝えしたいと思います。

## Q1：パプアニューギニアってどこにあるの？

パプアニューギニア（以下PNGと略す）は赤道の直ぐ南、オーストラリアの北にあるニューギニア島とその周辺にある1000の島々からなる国（以下の写真）で、地球最後の秘境とも呼ばれています。

首都はニューギニア島にあるポートモレスビーです。私がいるココポはニューギニア島の北にあるニューブリテン島のラバウルから車で1時間くらいの所にあります。首都からココポまで、約780kmあり、飛行機で1時間30分かかります。

## PNGの概要

- ・面積：46.2万 km<sup>2</sup>  
（日本の約1.25倍）
- ・人口：約620万人
- ・言語：英語、ピジン語、モツ語、現地語
- ・宗教：キリスト教



## Q2：PNGの言語について

PNGで使われる言語は大きく分けて500、細かく分けると800語を数えます。なぜ、そんなに言語が多いのか？これは私の意見ですが、PNGには多くの異なる部族がいるからだと思います。PNGには、人々の間に「ワントク」と呼ばれる仲間意識（義理のようなもの）があります。

「ワントク」(Wantok)は、文字通りには「ワン・トーク」(one talk)または「同じ言葉」を意味します。さらに「同じ家族」、「同じ部族」という意味があります。例えば、ワントクの誰かに助けてもらった場合は、自分が損することになっても相手を助ける義務があります。このように同一部族間で使用される言語が現地語 (tokples) です。これは部族によって異なるため、そのため多くの言語があると思います。ちなみに私の住んでいる町はトーライ族と言われる部族です。トーライ族が使用する現地語はクワンヌア語です。

PNGの共通語は公用語が英語で、日常的に話されるのはピジン語とモツ語です。ピジン語は英語と現地語が混じったものの総称です。そのため隣国のソロモンやバヌアツで使われるピジン語と共通点は多いですが、同じではありません。ピジン語の特徴として、同じ発音を繰り返す単語が多いです。例えば、「話す」は「トクトク」、「食べる」は「カイカイ」、「少し」は「リクリク」などがあります。ピジン語は英語と似ていても意味が全く違う単語もあるので、注意しなければなりません。

### ピジン語入門編

おはよう。	モーニン (Monin)	じゃまたね。	ルッキム ユー (Lukim yu)
こんにちは。	アピヌン (Apinun)	何?	ワネム? (Wanem?)
こんばんは。	グツナイト (Gutnait)	いつ?	ワネムタイム? (Wanem taim?)
ありがとう。	テンキュー (Tenkyu)	どこ?	ウエ? (We?)
ごめんなさい。	ソーリー (Sori)	だれ?	ユー フサット? (Yu Husat?)
お元気ですか。	ユー オライ?(Yu orait?)	なぜ?	ビロング ワネム? (Bilong wanem?)
私は元気です。	ミーオライ (Mi orait)	いくら?	ハマス? (Hamas?)
さよなら。	グツバイ (Gutbai)	私の名前はヒロです。	ネム ビロング ミー ヒロ (Nem bilong mi Hiro.)

長々と書いてしまいましたが、私は日常生活、仕事ともにピジン語を使って話をしています。PNGの人達は、英語、ピジン語、現地語の3つの言葉を話す事ができるので、とてもすごいなあと思います。私も今は、英語、ピジン語、現地語(クワンヌア語)を習っています。ちょっとでも話ができるようになりたいです。

### Q3 : PNGの食べ物について

PNGの人達の主食は、主にイモ類、バナナです。イモにはたくさんの種類があります。サツマイモ、ヤムイモ、タロイモ、シンガポーなどです。サツマイモの中にもたくさん種類があり、私には理解できないものが多いです。ほとんどの家庭でイモなどは自給しています。バナナにもたくさんの種類があります。大きく分けてフルーツ用のバナナと食用のバナナがあり、その中で様々な種類があります。調理方法としては、丸ごと茹でたり、ココナッツミルクで煮たり、焼いて食べたりしています。

伝統的な料理方法は「ムームー」と呼ばれる蒸し焼き料理です。地面を掘って熱した石を穴に入れていき、その上にイモ、野菜、豚肉、鶏肉などをバナナの葉で包んでのせ、さらに熱した石を被せて蒸し焼きにする料理です。できあがるまでに2~3時間はかかります。

### <ムームー料理の写真>



野菜、肉を入れてます



バナナの葉で包み石をのせます



できあがりの料理です

### Q4：PNGのお金について

PNGの通貨はキナ(kina：真珠貝を意味する)とトヤ(Toea：小さな貝を意味する)があります。1キナ=100トヤです。日本円では1キナ=約40円です。

私が住んでいるココポ地域には、シェルマニーと呼ばれる伝統的な貨幣があります。この貨幣は現在、PNGで使用されているキナ、トヤができる前から使われていたそうです。トーライ族はこのシェルマニーをタブ(Tabu)と呼んでいます。シェルマニーはある特殊の貝殻をひもに通していき作っていきます。貝殻をひもに通していき、これを約2m作ったものを1パラムと呼び、5キナの価値があるそうです。2mとは成人男性が両手を横に伸ばした長さを示しています。また1パラムで1キロのお米を買うことができます。また一つの貝殻の単位を1ビッツと呼び、20ビッツで20トヤ、つまり1ビッツで1トヤの価値があります。この地域のシェルマニーはキナと同等の価値があり、キナの価値が下がったときは同等にシェルマニーの価値も下がっていきます。現在、ココポの一部の銀行ではシェルマニーも扱われているそうです。シェルマニーはココポタウンの食料・電化製品店では使えませんが、村の周辺にあるマーケットでは使用できます。

シェルマニーはこの地域の冠婚葬祭でも使用されています。この地域では結婚する際に男性が女性をお金で買う習慣があり、結婚する際、男性が女性方の家族にお金を払うことで結婚できます。私が聞いた話では、三百万ビッツ=3500キナ程のお金を支払っているらしいです。これを聞いた時、とても大きなお金だと私自身感じましたが、このお金は一人で支払うのではなく、家族や親戚からお金を援助してもらうためそれほど大きなお金ではないと言われていました。PNGではワントクシステムなど同一民族のつながりが強いと言われていましたが、これを聞いた時、家族や親戚のつながりの強さを改めて感じる事ができました。

### <シェルマニーの写真>



(おわりに)

今回は簡単にPNGの紹介をさせて頂きました。次回はもう少しPNGの事をお伝えできるように「Hamamas」にて皆様にお伝えしていきたいと思っております。よろしくお願ひ致します。

(26/Sep/2009)